

【にしふさ・こうじ】プロフィール・画歴

- 1960年 能登町黒川生まれ
- 1983年 日本大学芸術学部卒業
- 2000年 昭和会展 日動火災賞
- 2001年 安田火災美術財団奨励賞展 秀作賞
前田寛治大賞展 大賞
石川県現代美術展 美術文化大賞
- 2002年 日本現代美術作家展（チェコ・プラハ）
日展 特選
- 2003年 日本現代画家 21 人展（上海・華氏画廊）
文化庁・新進芸術家派遣によりチェコ・プラハに
1年派遣
- 2004年 Art Prague 出品（プラハ）
- 2005年 損保ジャパン美術財団選抜奨励賞展
個展 SLOVAKILA NITRA 市立美術館
- 2006年 光風会 辻永記念賞
日展 特選
- 2007年 DOMANI・明日展・文化庁芸術家在外研修
- 2008年 個展（gallery9・チェコ）
- 2009年 光風会 ミノルカ賞
- 2010年 光風会 文部科学大臣賞
日展審査員
- 現在 光風会評議員、日展会員、能美市在住



黒川出身の日展画家

西房浩二さん

Nishifusa Koji

地元初の本格的個展と ギャラリートークを開催

若き日の作品を特別展示

「誰が見ても分かりやすく、きれいに見えるけれど、深い感じがする絵」

日展特選2回、昨年の日展審査員を務めた洋画家西房浩二さん（51）＝黒川出身＝は、作品に込める思いを語る。

町民文化祭の特別企画展として、町出身芸術家の作品が紹介されるようになって2年目。今年には西房さんの作品24点が町立美術館に展示された。

今回展示された作品は、20代後半から30代に描いたもの。学校や役場などの公共施設に寄贈された作品や個人所有の作品を文化協会が集めた。西房さんの作品が、古里能登町で本格的に展示されるのは初めてだ。

「自分の作品を知ってもらおう良い機会。展示が終わった後も、施設に見に行ってもらえれば」と特別展の感想を話す。

教員をしながら作家活動を続けていた西房さんに転機が訪れる。2001年、若手画家の登竜門として有名な「前田寛治大賞展」で大賞を受賞。翌02年には日展で特選を受賞するなど、西房さんの作品は国内外で高く評価されるようになった。

03年、さらに上を目指した西房さんは、文化庁の留学制度に応募した。

「留学するか仕事を続けるかの選択。この時、教師を辞めて画家として独立する道を選んだ」と振り返る。

その後も、所属する光風会の賞や2度目の日展特選など、



11月18日、町立美術館で開催された「西房浩二ギャラリートーク」には、町内外から約50人が参加。作品の前に、制作エピソードなどが語られた。

11月18日には、西房さんが直接作品についての説明や質問に答える「ギャラリートーク」を開催。町内外から訪れた約50人が西房さんの話に耳を傾けた。

日本を代表する画家に

「画家になりたいという夢はずっと持っていた」

幼少のころから絵を描くのが好きだったという西房さん。大学卒業後は美術教員として能登地区の学校に赴任した。

数々の賞を受賞。日本を代表する洋画家の一人となった。

「これまでの大作は静物画が多かった。今後は大きな風景画を描き、単純で奥深い絵をさらに追求していきたい」と抱負を語る西房さん。

「今回の展示をきっかけに、能登町内で絵が好きな人たちの活動が活性化するようお手伝いをしていきたいし、世話をしてくれた文化協会の皆さんにお礼を言いたい」と思いを語る。

特別展は12月4日まで町立美術館で開催されている。西房さんの奥深い具象の美を、その目で感じてほしい。



『宴の後』 1993年作 柳田中学校蔵